

第27回  
外国人による  
日本語スピーチコンテスト

2018年2月25日（日）午後1：00～4：30  
ところ／県民文化センター小ホール  
主 催／公益財団法人茨城県国際交流協会  
共 催／茨城県

\*茨城県教育長賞

エヴァ ヴァネサ デヴィド (マレーシア出身)

「自分の限界を広げてみませんか？」

みなさん、こんにちは。今日は、アルバイトという経験を通して、私は日本の文化を知り、多くの日本人と出会えたことについて話したいと思います。

私はひたちなか市に住んでいます。去年約5ヶ月間ひたちなか海浜公園でアルバイトをしました。海浜公園ではジェットコースターや観覧車など色々なところでお客さんの案内をしたり、ゴンドラに乗せたり、降ろしたり、しました。

最初の日にお世話になった加藤さんというアルバイト先の社員が観覧車の安全確認の仕方を私に教えてくれました。その時加藤さんはこのように言いました。「人差し指で刺しながら、「ロック OK! ラッチ OK! 何番のゴンドラは OK です!」と元気な声を出してね。」これが指差し確認でした。

マレーシアでは、こんなことをやったことはないので、初めてロック確認をしたときに、すごく恥ずかしかったです。腕もちゃんと伸ばさずに小さな声を出しました。それで、何度も何度も社員の方に注意されました。

そのため、「どうして確認をするのにこんなに厳しいのだろう。これは本当に必要なのか」と疑問に思いました。そんな時私はフェイスブックで1つの答えを見つけました。それは「指差し確認」という記事でした。そこには、「指差し確認は日本の文化である。」ということが書かれていました。そこで、この記事をきっかけにして、指差し確認についてもっと詳しく調べました。

みなさん、指差し確認の始まりはご存知ですか。実はその始まりは明治の終わりのころに神戸鉄道運営局が最初にこのシステムを導入したということでした。1994年に、指差し確認の効果を図る実験が行われました。

この実験によれば、指差し確認を利用した場合、利用しなかった場合と比べてボタンの押し間違いは6分の1にまで減少したということです。指差し確認の効果率はこんなに高いなんて、びっくりしました。

このことを知ったうえで、私は観覧車の指差し確認をしっかりとやるようになりました。その結果、一度もロック確認を忘れたことはありませんでした。アルバイトをしてみて、安全の大切さを学び、そのために試行錯誤した歴史を知ったことは素晴らしい経験でした。

これは私のアルバイトのストーリーです。アルバイトをする前に私はどんな人だったかという、試験の成績のことばかり心配していて、勉強以外のことは私にとってただ時間を無駄にするだけなのだと考えていました。しかし、そうすると、留学の意味はなくなるではないかと考えていました。

アルバイトを始めたばかりのころはあまり日本語に自信がありませんでしたが、勇気をだしてゴールデンウィークから夏休みの終わりまで続けて、日本語での会話はもっとできるようになり、日本人の友達もたくさんできました。日本の文化も「無料」で学ぶことができました。もちろん、怒られたり、外国人は私以外いなかったから、寂しくなりませんでしたが、つらい思い出があるからこそ、人間は成長できるとも信じています。

今日は留学生の方が多いと思いますが、せっかく日本に来たのですから、アルバイトではなくても、ぜひ、みなさん、交流会などいろいろな人と出会える活動に参加してください。小さな世界から抜き出して、私と一緒に自分の限界を広げてみませんか。今日はどうも、ありがとうございました！